

敬老の日特集

「ケアハウス ビスガこうせい」には101歳を迎えられる堀江遠久子様、100歳を迎えられる眞柄正子様がお住まいされています。お二人とも、ご自分で食堂で食事を取られ自立した生活をされています。二人ともクリスマスチャンで聖書が愛読書で、聖書の言葉が心の支えとなっています。このお二人に、最近の心境をお聞きました。

100歳を迎える心境

眞柄 正子様 明治45年 1月5日生

87才で「ケアハウス ビスガこうせい」にお世話になって、年を考えると恐くなります。その間、何をしていたのか。昨日は何をして、どうしていたのか。今日の日、明日は何をするのか、考えることが多くなりました。

先日、洗面台の前でステーンと滑り、尻餅をついてしまいました。神さまは痛みを与えておられない。自分の不注意で痛みを負っている。神さまが手を伸ばして下さっていたから大事に至らなかった。「神さまお許し下さい。ありがとうございます。」と感謝の気持ちでいっぱいです。

戦中、戦後、日毎の糧を得るために、仕事と生活を両立していこうと思うとたいへんでした。犯罪をしなくても食べられたことは有難い。罪は消えないが神さまが罪を引つ被って下さっている。本当に有難いです。

思い煩っても、人は人としてしなければならぬことが沢山あります。生きていることが人の役に立っているのか、周りの皆さんにお世話になるだけで迷惑をかけているのではないのか。私の力は及ばない。神さまに委ねることしかない。神さまにおまかせしなければならぬ。今はそのような心境です。



101歳を迎えて

堀江 遠久子様 明治43年 9月18日生

私は、平成23年9月18日で満101歳を迎え気が遠くなるほど生かされてきました。世はなべて長寿社会であるが、「ケアハウス ビスガこうせい」では百歳は私一人です。そう思うと百歳はすごいことなのでしょう。世界中、どこを見ても良好の社会という訳ではありません。特に我が国の東北地方の災害の惨事は、未だかつて味わったことのない酷さです。人間のなせる業の報いが、世の終わりの兆候かと思ってしまう。

私は19歳の時に、何のいさおしの無いまま、神に見いだされ、からし種一粒ほどの信仰をいただき、何の為かわからぬまま年を重ね、今になって初めてこれこそ大いなる神からの賜物だと合点した次第です。神の仰せの如く、折りを得ても得なくても地の果てまでも述べ伝えよとの神の真意を知り、私ごとき者がこんな大役をなぜ与えられたのか、これこそ人間にとって一番大切な選びの器にされました。神の恵みと知りなすすべのないまま、一途に信仰の道を歩みだしました。そして、今日に至っている次第です。

人間には好むと好まざるに関わらず、平等に死がやってきます。一人残らず神の前に立たなければなりません。そして、その人が生前成した業の一つ一つを述べなければなりません。私が、これほど長寿なのは、その時に対して準備されていないための時間を待っていたのではないかと気がつきました。しっかり神の前に立ち、言い開きのできる時間を持ち、もうしばらく生きるとはしんどいことですが…、御言葉に従って生きていこうと願っています。

人は知らぬ間に犯してしまうのが罪であります。旧約の一番始めの創世記にカンの有名なアダムとイブの物語こそその原罪の原点でありましょう。イエスキリストが、私たちの罪を全部背負われて十字架にかかり私の罪の贖罪となって死んでくださった。こんな嬉しいおとずれがどこにありましようか。一方的に恵に与らせていただけるこの喜びが何に換えられるでしょうか。

奪い合えば足らなくなります。分かち合えば余ります。奪い合えば憎み、分け合えば安らぎます。主にある苦難は栄光への門口です。祈りとは、人間の成し得ることの中で最も大切なことであり、どんな状態になっても出来ることであります。 感謝



寄付金・後援会費 感謝報告 2011年5月3日～2011年8月6日現在

(順不同・敬称略)

後援会へのご加入をお願い申し上げます。ご協力頂いております方々のご芳名を掲載し、報告とお礼とさせていただきます。

- | | | | | | |
|--------|--------|----|--------|--------|--------|
| 浅野 直人 | 川田 達生 | 礼子 | 登 政義 | 山崎 敬子 | |
| 家形 日出 | 木村 晶子 | | 野村 昌代 | 山田 喜久子 | |
| 池田 澄子 | 木村 暈好 | | 萩原 正夫 | 山田 陽子 | |
| 石田 しずゑ | 久保 邦男 | | 萩山 美代 | 和田 かほる | |
| 井上 謙美子 | 小久保 正 | | 八子 美代子 | 忠明 | 渡辺 美寿子 |
| 上柿 京子 | 小宮山 林也 | | 原田 潔 | | |
| 上田 圭子 | 佐賀 昭子 | | 春名 康範 | | |
| 植田 清一郎 | 佐治 千栄子 | | 東嶋 和代 | | |
| 植野 茂男 | スワ 節子 | | 美藤 章 | | |
| 植松 喜美子 | 杉本 洋二 | | 平野 正 | | |
| 後宮 耕三 | 鈴木 真志 | | 藤原 則夫 | | |
| 後宮 周子 | 立石 勤 | | 藤原 忠昭 | | |
| 後宮 忠弘 | 谷口 定 | | 細見 昌平 | | |
| 宇田川 潔 | 玉井 富士男 | | 堀江 義隆 | | |
| 宇野 豊 | 木村 アサ | 嗣子 | 眞壁 日史郎 | 泰子 | |
| 江坂 剛三 | 美恵子 | つる | 松平 吉生 | 千鶴子 | |
| 榎本 和子 | 内藤 弘子 | | 南 俊子 | | |
| 大石 孝太郎 | 中西 加代子 | | 宮本 由子 | | |
| 大泉 静代 | 中道 晴夫 | | 目戸 竜太郎 | | |
| 大山 俊郎 | 悠子 | | 森口 芳茂 | | |
| 奥村 展三 | 西川 泰子 | | 森口 貴子 | | |
| 小野 隆史 | 薫 | 久江 | 森口 孝彦 | | |
| 小畑 義夫 | マツ子 | | 森口 まつ江 | | |
| 川嶋 昭吾 | 西村 マツ子 | | 森口 保 | | |
| 川添 綾子 | 野田 穂 | | 安田 綾子 | | |

滋賀県共同募金会の助成金を頂きました

この度、滋賀県内の皆様からお寄せ頂いた善意の寄付金により、小規模多機能型居宅介護事業所「ぼだいじ みんなの家」の送迎車両を購入しました。

内装が広く、車椅子のままゆったりと乗車できるので、ご利用者様に安心・安全な送迎サービスを提供できるようになりました。そして、訪問や宿泊のご希望にも即対応できるので、大活躍です。本当にありがとうございます。



事業内容

ケアハウス:ビスガこうせい / ぼだいじデイサービスセンター / ぼだいじホームヘルプステーション / ぼだいじ居宅介護支援センター / 高齢者支援センターぼだいじ / グループホームぼだいじ / 中央デイサービスしんあい / 小規模多機能型居宅介護ぼだいじ・みんなの家

発行日 2011年9月

発行責任者

理事長 奈良 警 夫
館長 森口 茂

振後
込援
口座
会費

取り扱い金融機関 郵便局
口座番号 00960-0-109363
社会福祉法人 近江ちいろば会
会費:年額1口 5,000円(何口でも可)

ビスガからの風 第29号

2011年9月

社会福祉法人 近江ちいろば会

ビスガこうせい 〒520-3242 滋賀県湖南市菩提寺327-4

TEL.0748-74-3900(代表)
FAX.0748-74-3910
http://chiiroba.jp/

法人の概要

在宅支援を中心に事業展開を行い16年が経過しようとしています。湖南市の方々に、多くの支援を受けここまで成長していますことを感謝申し上げます。今後も高齢化が進む中、地域でできるだけ長くお住まいいただけるように、多様なサービスを提供してまいります。

当法人が地域の中で、「ここにこの施設があつて助かる。心強い、相談にのってもらえる」といわれるように施設が地域資源となるように、地域と密着して歩んでまいりたいと願っております。

理念 「人にしてもらいたいと思うことを 人にもしなさい」

理念を判断・行動基準にして顧客満足の最大化を目指します。



館長 森口 茂

事業の概要

ケアハウス ビスガこうせい	定員50名	居宅介護支援センター
ぼだいじデイサービスセンター	一般型 定員35名	高齢者支援センター
	認知症型 定員30名	ぼだいじヘルプステーション
中央デイサービスセンターしんあい	認知症型 定員10名	移送サービス
グループホームぼだいじ	定員18名	
小規模多機能型居宅介護	ぼだいじみんなの家 定員25名	

従業者数 総職員 114名 (平成23年6月現在)

今後の予定

平成24年4月 グループホーム2ユニット、デイサービスを甲賀市に開設



6月に開設いたしました、小規模多機能型居宅介護 ぼだいじ・みんなの家をご紹介します。

竣工式 2011年5月21日

開設記念講演会 2011年5月28日



市長、地域の区長様など多くのご来賓をお招きして盛大におこなわれました。



太陽光を取り入れた施設をアピールするために、滋賀医科大学の睡眠学の権威の宮崎総一郎先生に講演をいただきました

「ぼだいじ みんなの家」が今年6月の開所から早くも2ヶ月がたちました。

現在、ご利用されている方の多くは菩提寺近辺の方で、この事業所で久しぶりの再会を果たされている方も多くいらっしゃいます。この事は地域密着型サービスならではのことに思います。

「ぼだいじ みんなの家」は小規模多機能型居宅介護サービスとしてご自宅から通っていただくだけでなく、必要に応じて「泊り」や「訪問」のサービスも駆使して、地域にお住まいの方が少しでも長く、住みなれたご自宅で暮らし続けられるように支援させてもらっています。

例えば、高齢夫婦だけの世帯で自宅での介護が難しくなっておられるお宅へ訪問し、朝晩の起床、就寝のお手伝いをさせてもらっています。他にもご家族の仕事のご都合などにより、日中お一人で過ごされている方のお宅に赴き、安否確認やお食事のサポートもさせてもらっています。また事業所での泊まりは、急なご家族様の入院や、お葬式などの緊急時にもご利用いただけるように対応させてもらっています。

通いなれた場所で泊まり、顔なじみの職員が訪問にうかがうことにより、ご利用者、ご家族様に安心していただけるように努めるとともに、その方の生活状況に合わせ、その方が本当に必要とされているサービスを提供させていただき、いつまでも安心してご自宅での生活が続けられるように私たちもがんばっていきます。今後とも「ぼだいじ みんなの家」をよろしく願います。

みんなの家 所長 上西 忍

基本理念：人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

私たちはキリスト教の精神に基づいて、高齢者の全生活において、「隣人愛の奉仕」を実施することを基本理念とします。